

身延山資料叢書 二

目錄集 二

身延山大学 東洋文化研究所

身延山資料叢書 二

目錄集 二

身延山大学

東洋文化研究所

目次

凡例……………2

大聖人御筆目録

(御筆御書註文、台家聖教註文)……………5

靈宝目録

(西土蔵宝物録、当山歴代等曼荼羅録、
宝蔵並中央之廊下拜殿 一切経堂 古仏堂録・会合所・方丈位牌堂録・書写並摺写経録)……………33

凡 例

本資料集に収録した久遠寺第十二世日意筆「大聖人御筆目録」一冊と久遠寺第三十三世日亨筆「西土蔵宝物録」「当山歴代等曼荼羅録」「宝蔵並中央之廊下拝殿一切経堂 古仏堂録・会合所・方丈位牌堂録・書写並摺写経録」一冊は、何れも山梨県南巨摩郡身延町の身延山久遠寺内にある身延文庫に所蔵されている。身延文庫の典籍資料の概要は、『身延文庫典籍目録』（上・中・下、平成十五〜十七年）三巻として身延山久遠寺より刊行され、本書の書誌は中巻に紹介されている。また、両書の日蓮聖人真蹟に関わる部分は、昭和定本『日蓮聖人遺文』三巻に一部収録されている。

既刊の『身延山資料叢書』では、通称「乾師目録」と「遠師目録」を紹介したので、本書はこれに関わる身延山の宝物目録集二点を紹介することにした。原本保護の点から写真版の一部に不十分な箇所があるが、了とされたい。

両書の書誌については、以下の通りである。解説にあたって、「意師目録」は、身延山大学東洋文化研究所木村中一所員が、「亨師目録」は、同望月真澄所員がそれぞれ担当した。

- 1、久遠寺第十二世日意筆「大聖人御筆目録」一冊
 - ・架蔵番号 当山の部（歴代の部） 十二世日意 十二 B 2（2）
 - ・書名「御筆御書註文」
 - ・法量 縦二七・九cm×横二〇・五cm

- 2、久遠寺第三十三世日亨筆「西土蔵宝物録」「当山歴代等曼荼羅録」「宝蔵並中央之廊下拝殿一切経堂 古仏堂録・

会合所・方丈位牌堂録・書写並摺写経録」一冊

・架蔵番号 当山の部（歴代の部） 第三十三世日亨一一

・書名「靈宝目録」

・法量 縦二九・七cm×横二一・四cm

身延山久遠寺十二世「大聖人御筆目録」、同二十一世日乾筆「身延山久遠寺御靈宝記録」、同二十二世日遠「身延山久遠寺蓮祖御真輸入函之次第」に続く身延文庫所蔵の宝物目録として評価されるものである。なお、身延文庫内では、今回紹介する日意筆宝物目録が、「意師目録」、日亨筆宝物目録が（「亨師目録」と通称され、護持されている。

1、「意師目録」

「意師目録」の筆者である円教院日意は元天台宗の学僧で、師である行学院日朝の後、身延山第十二世の法灯を継承し、その在職期間は二十年に及んだという。

意師目録は「御筆御書註文」と法量の異なる「台家聖教註文」が合冊されており、「御筆御書註文」中において収録される日蓮聖人遺文を「録内之分」、「録外之分御筆御書」、「録外御書註文 日意所持分」等と録内御書・録外御書に区別していることが伺える。また目録中に「法華和讃」の名前をみることができ、『日蓮宗事典』などにおいてこれが教団の記録に「法華和讃」が現れる嚆矢であるとしている。さらに各丁には丁付がされているが「七」丁から「十四」丁と丁数が飛んでおり、この点については一考の余地があるろう。

先にも述べたが日意は元天台宗の学僧で、その書写本には寛正七年（一四六六）から文明四年（一四七二）の間に、天台教学を修学した写本が現存しており、それらは「台家聖教註文」に記されている。さらにその他の俗

書などの日意所持本の記載もここに見受けられる。

本書の丁数は、「御筆御書註文」十一丁、「台家聖教註文」十一丁が合冊となり、一緒に綴じられ、全部で二十丁となる。
(木村中一)

2、「亨師目録」

「亨師目録」の全文の翻刻は、『身延山大学東洋文化研究所所報』第三号（一九九八年）、同第四号（一九九九年）に分冊して史料紹介しており、日亨に関わることや目録の性格について述べているので参照されたい。

著者の久遠寺三十三世日亨は、過去の宝物目録を閲覧し、現時点で久遠寺が所蔵する宝物類を再確認したものと考えられる。

前号の『目録一』と今回の『目録二』を併せて考えると、身延山久遠寺に伝えられた日蓮聖人の御真筆類や伝来・蒐集した御宝物の伝存状況がわかると思われる。

身延文庫に伝来する多くの御宝物類は、明治八年の大火でほとんど失われてしまったので、実際に拝することができないのが残念である。しかしながら、これらの目録類を見ると、かつて所蔵されていた日蓮聖人真蹟をはじめとする宝物類の存在が確認できるのは有り難いことである。

本書の丁数は、「西土蔵宝物録」二十一丁、「当山歴代等曼荼羅録」六丁、「宝蔵並中央之廊下拝殿一切経堂 古仏堂録・会合所・方丈位牌堂録・書写並摺写経録」三十九丁が合冊となり、一緒に綴じられ、全部で六十六丁となる。
(望月真澄)

両書を刊行するにあたり、身延山久遠寺御当局のご理解とご協力を賜った。また、身延文庫並びに布教部・宝物館の関係各位には、原本の調査・写真撮影に特別のご高配をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。

大聖人御筆目錄

(御筆御書註文、台家聖教註文)

靈寶目錄

(西土藏寶物錄、当山歷代等曼荼羅錄、
寶藏並中央之廊下拜殿 一切經堂 古仏堂錄・會合所・方丈位牌堂錄・書寫並摺寫經錄)

身延山資料叢書 二 目録集 二

平成二十四年三月三十一日 発行

編集 望月真澄・木村中一（本巻担当）

発行所 身延山大学 東洋文化研究所

〒四〇九―二五九七

山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七
Ⅸ（〇五五六）六二―一〇七